
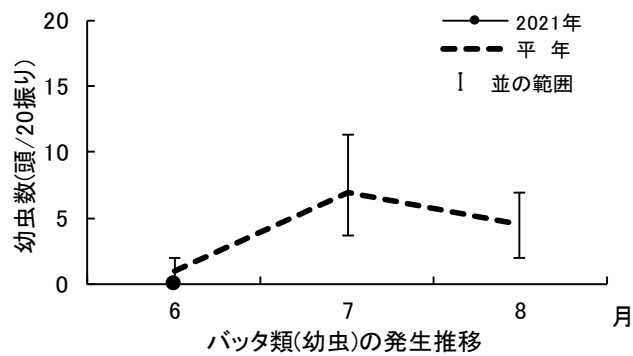


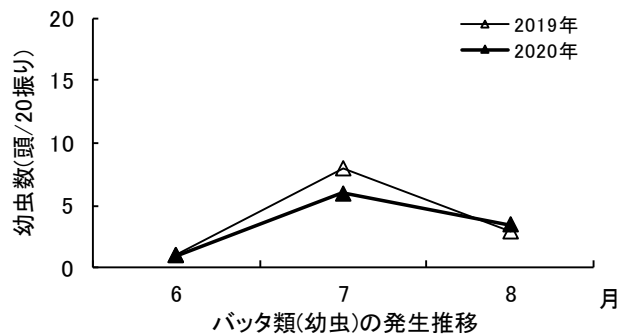
作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	① バッタ類		
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報	6 月からの増減傾向	↗	
		7 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年の推移



- ・発生ほ場率：42% (平年値：59%)
- ・発生種：台湾ツチイナゴ、台湾ハネナガイナゴ

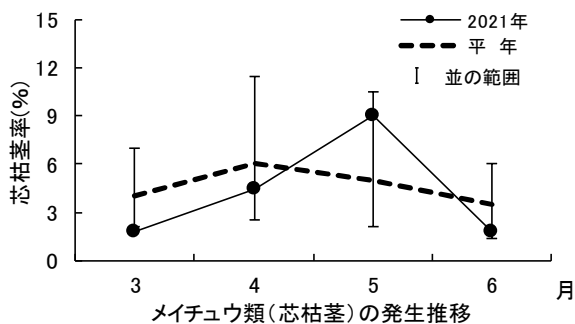
防除のポイント

- ・発生源となるほ場及び周辺のイネ科雑草の除草を徹底する。
- ・幼虫期の防除が効果的なので、ほ場周辺の見回りを行い幼虫の早期発見・防除に努める。

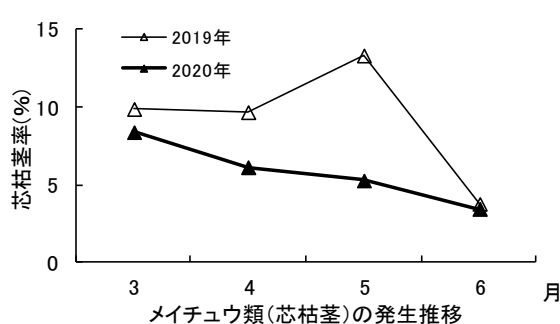
作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	メイチュウ類(カンシャシクイハマキ・イネヨトウ)		
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報	6 月からの増減傾向	—	
		7 月の発生量 (平年比)	—
予報の根拠			

調査結果

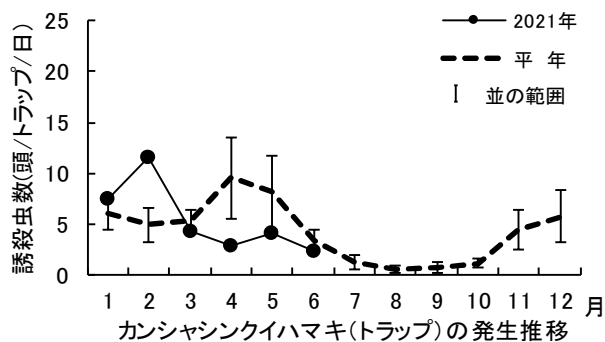
今期と平年の推移



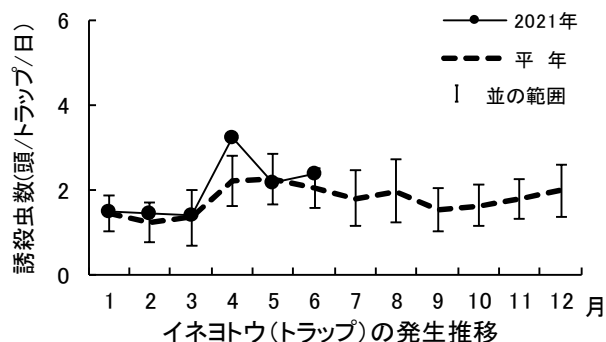
過去 2 年の推移



トラップ調査 (カンシャシクイハマキ)



トラップ調査 (イネヨトウ)



- ・ 芯枯れ発生ほ場率：88% (平年値：89%)
- ・ 茎内で発見したメイチュウ類のうち、100% (5/5頭) がカンシャシクイハマキであった。

防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。